



発行所 高知県立盲学校 高知市大膳町6-32 TEL 088-823-8721 mo-s@kochinet.ed.jp

「入学して良かった、入学させて良かった学校」を目指して!

地域の皆さんこんにちは。いつもお世話になってます盲学校です。

今年は、小学部から専攻科理療科まで21名でスタートしました。人数は少ないですが、子どもたちや保護者から「入学して良かった、入学させて良かった」、また、地域に根差した学校づくりを目指して参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

JICA研修生来校

4月25日(火)に、開発途上国で目指すべきインクルーシブ教育、特別支援教育の姿を明確にし、その実現に向けた方策を作成するために、ウルグアイ、コスタリカ、ドミニカ、パラグアイ、ベネズエラ、ボリビアより15名の研修生が来校しました。



研修生一行



理療教育について説明する生田教諭

中でも、研修の疲れからか、あんま・マッサージの体験は好評で「このままホテルに帰って寝たい」などの声が聞かれ、短い時間で大変有意義な研修となりました。



楽しかった「お話教室」

5月26日(金)に、岡本悦子さんを講師にお迎えし、幼小学部で「お話教室」を行いました。



講師の岡本さん



楽しいなあ~

中国・四国地区盲学校体育大会開催 浅野くん 昨年の雪辱を果たす!

第24回中国・四国地区盲学校体育大会を7月21日(金)から23日(日)にかけて本校を主会場に開催しました。

本校からは、フロアバレーボールに6名、サウンドテーブルテニスに2名が参加しました。サウンドテーブルテニスにおいては、昨年の広島大会で惜しくも入賞を逃した浅野くんが、準決勝では敗れたものの3位決定戦で勝利し、昨年の雪辱を果たし3位に入賞しました。

高等部普通科1年 長山輝

この大会で一番嬉しかったのは、相手からのボールを一発アタックで得点できたことです。高知盲のチームは、鳥取盲学校と

の合同チームで、仲良くない良いチームを作ることができました。チームのメンバーが互いに励まし合い、力を出し切ることができ、良い思い出になりました。

高等部普通科2年 山本 麻琴

私は、フロアバレーがどんな競技なのかいまいち想像がつかなかったから、正直フロアバレーに乗り気ではなかった。しかし、皆と練習をするうちにフロアバレーの面白さに気付き、頑張つてやってみようと思うようになりました。

大会では、鳥取盲との連合チームということとで初めは大丈夫かなと思つていましたが、鳥取盲の二人は上手でチームワークもバッチリでした。成績は一勝二敗と残念な結果でしたが、結果以上に得るものが多く、参加して良かったと思ひました。

高等部普通科3年 浅野 拓朗

僕は、サウンドテーブルテニスで大会に参加しました。去年、広島で開催された大会に出た時、準決勝まで勝ち進みましたが準決勝と3位決定戦で負けてしまいました。4位という結果に終わりました。

今年の大会では、準決勝では負けしてしまいましたが、3位決定戦には勝つことができ、3位になることができました。

今まで頑張つて練習してきたことが結果につながつてうれしかったです。高校生最後の大会を良い結果で締めくくれたので良かったです。

保健療科2年 八木 寛行

他校との差がかなりありましたが、何とか1勝はできました。大会の結果は残念でありましたが、収穫はあったと思ひます。来年、がんばりましょう。

保健療科3年 山中 啓嗣

フロアバレーボール競技に参加しました。現役時代(ラグビー)は常にレギュラーでしたが、今回はベンチを温めていました。現役時代の熱い思いがよみがえり、心は常

専攻科理療科1年 伊與田 萌

初めて中四盲体に参加ということですが、緊張していましたが、しかし、試合が始まることも楽しく、成績はあまり良くなかったものの、全力で楽しむことができ、良い思い出になりました。

専攻科理療科1年 鶴川 亮太

今回、中四盲体初参加で初のフロアバレー競技に出場しました。鳥取盲学校の方々と合同チームということとで、初めはお互いにぎこちない感じでしたが、練習をするにつれ、チームとしてまとまってきました。

大会の結果はよくなかったですが、今回の悔しさを糧にして次回の徳島大会で頑張りたいと思ひます。サポートしてくださった保護者の方々、先生方、本当に有難うございました。

専攻科理療科2年 都築 綾子

一勝したいという目標は達成できませんでした。たかさんの先生方やチームメイトとの練習はとても楽しくいい思い出になりました。大会に参加できたことに感謝しています。

被災地訪問(岩手県)を終えて

「高知県高校生津波サミット」事業の一環として、本校の生徒3名が7月31日(月)から8月2日(水)にかけ、被災訪問学習として岩手県に行ってきました。

新聞や動画、本などで見るより、実際に被災地を訪問し、語り部(ガイド)さんから話を聞いたり、災害時の様子や復興の状況を見たことで、改めて、地震や津波の恐ろしさを感じたことと思ひます。また、同世代の大船渡高校生との学習会もあり、充実した被災地訪問ができました。

高等部普通科1年 長山 輝

私は津波サミットで岩手県の田老町を訪問したことが、一番心に残っています。一言で言えば「津波は怖い」と思ひました。これは逃げようがないと思うほどの壊

滅状態で、新築の建物とがれきが混在していました。それでも、自分の命を守る為には、高い所へ逃げた後に、更に高い所に逃げるのが大切だと感じました。

津波の避難は時間との戦いなので、日頃からどこに逃げ場所があるのかを知っておくことが大事です。そして、ハザードマップの重要性を改めて知り、活用していかなければならないと思ひました。

高等部普通科2年 山本 麻琴

岩手に実際に行つて感じたことは、津波は本当に恐ろしいものだと感じ、防潮堤も簡単に乗り越えて街に入ってきた映像を見てどんなに頑丈に建物を造つていたとしても自然の力には逆らえないということを実感しました。

津波が来たら逃げるといふ行動は当たり前なことだが、パニックに陥つたりすると何をすれば良いのかわからなくなつたりするので、まずは冷静に物事を考えて行動しなければいけないということも学ぶことができました。

東日本大震災のことを無駄にしてはいけなさと感じ、何が起るかは予想ができないから、危機感を持つていなければいけないと思ひました。

高等部普通科3年 浅野 拓朗

今回の被災地への訪問は、津波の恐ろしさを感じさせる内容でした。津波によつて何もかも流されている光景や奇跡の一本松を実際に見たり、現地の語り部(ガイド)の方から、津波が来た時の状況の説明を聞いた中、津波の危険さが伝わってきました。今回学んだことから、高知県にも影響のある南海トラフ地震に対する防災について考えていきたいと思ひます。

